

☆大会規定

ジュニア

1. 選手登録は1チーム11名以上、25名以内とする。
2. 出場選手は連盟に登録され、指定の傷害保険加入者に限る。
3. 登録選手及び登録されたチーム責任者・監督・コーチ・マネージャーのみベンチに入ることができる。但し、各種登録証及び審査証を携帯しなければならない。
4. 組み合わせの若番号が1塁側ベンチ、後番号が3塁側ベンチに入る。
5. マネージャーは選手と同じ帽子を着用すること、監督背番号60・コーチ背番号50は選手と同じユニフォームを着用すること。
6. 試合開始予定時間の1時間前には球場に到着し、到着後直ちにメンバー表5部を提出して所定の審査を受けられるよう、準備し待機すること。
7. メンバー表交換時に両キャプテンにより先攻、後攻をジャンケンで決める。
8. 試合開始時間までにチームが到着していない時、審判は没収試合を宣言することができる。
9. 試合は1時間40分6回とし、1時間40分を越えて新しいイニングに入らない。
また、時間内で同点の場合は1回の延長を認める。
但し、決勝は6回で2時間とし、時間内で3回までの延長戦を認める。
尚、決着が付かない場合、最終のメンバー9名全員の抽選で勝敗を決める。
10. 4回終了時10点差、5回終了時7点差の場合はコールドゲームとする。
11. 降雨、日没等その他の理由により試合続行不可能となった場合、4回以降であればコールドゲームが成立、3回以内であればサスペンデットとし、次の試合日に再開する。
但し、4回以降同点の場合、最終回終了時に出場のメンバー全員で抽選を行う。
12. 試合での登板は以下のとおり制限する。
1日7イニング以内とし、連続する2日間で10イニング以内とする。また1日に複数試合に登板した投手及び連続する2日間で合計5イニングを超えた投手（5イニングは可）は、翌日に投手または捕手として試合に出場することはできないものとする。
ただし、イニングの端数（0/3、1/3または2/3）は1イニングとみなす。
「中学生投手の投球制限統一ガイドライン」の適用例参照
13. 攻守で監督及びコーチの指示・伝達は1試合で各2回の計4回を限度とする。
延長に入った場合は、1回の指示・伝達を認める。
(選手のケガや、選手の交代などは回数をカウントしない。)
守備側の投手に対する指示・伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。
内野手（捕手を含む）が、2人以上投手のところに行った時も1回に数える。
また、指示伝達は審判がタイムを宣告してから「30秒以内」とする。
14. 監督又はコーチが選手にアドバイスする時は、マウンド付近で行うこと。
15. チームの抗議権は監督のみにあり、監督不在の場合はコーチが代行する。
16. 申告敬遠を適用する。（監督は必ず球審に申告敬遠を宣告すること。）
17. ヘルメットを1チーム7個同色のものを備えること。
18. バット及びグローブ、スパイク等は連盟指定業者のものに限る。
19. 捕手は必ずユニフォームの下に、規定防具を試合及び練習を問わず着用すること。
20. グランドの都合で、大会トーナメント規定が別に制定されると、それに従うこと。
21. 大会中の負傷については応急処置を行うが、それ以外の責任はもたない。
22. その他本規定に定めのないものは、日本少年野球連盟の定めるところによる。
23. 光化学スモッグ発生（予報、注意報、警報）の場合、試合及び選手に対する処置は別に定め、運営委員の指示に従う。